

遠隔システムのトラブル防止対応方法（ポイント）

長野サマライズ・センター
2012年10月10日

「ソフトウェア系企業へのサーバ管理とソフトウェア関連のコンサルティング
委託・連携で環境改善に取り組みます」

- 1, 入力者4名の他に、1名の連絡担当をおく。
連絡担当は、表示画面を常にチェックし、不都合があったら、
すぐに現場の担当者に連絡を入れる。
- 2, 配信用パソコンのバックアップとして、サブ配信用と、
データカード配信用の計3台を用意し、最初からネットワークに
組み入れておく。
トラブルがあった場合、即座に切替を行う。
配信用 → サブ配信用 → データカード配信用
- 3, 前日までに、使用機器・回線の接続チェックを行う。
- 4, 前日までに、使用ソフトウェアの通信確認を行う。
- 5, 前日までに、ルータの外部チェック（NTT等）を依頼し確認を行う。
- 6, 開発担当者・全国の同業者とのトラブル情報交換を随時行う。
- 7, 1週間までに、関係者全員で手順を確認するための勉強会を開催する。

<ITBC v2.40 a39 バージョン後、受信機器の動作モードが見えます。>

受信部タイトル（画面上部の『ITBC2』と表示されている部分）が
* → ● → * → ● を繰り返せば正常に配信中。
▲▼は通信のエラーが発生し、再受信中。
読み込み停止モード時は■になります。
（何かしらの問題（応答なし等）の場合、●で止まる事が多い。）